

関西大学の学生のみなさん

# 損保ジャパン日本興亜は、ホントに、働きやすい、良い会社？

損保ジャパン日本興亜は、東洋経済 2015/11/30 発売号「大学生が選ぶ就職ブランドランキング（就活後半）」で9位に入るなど、就職人気企業ランキングの上位に入っています。

しかし、残念ながら、同社の実態は、60歳定年まで安心して働き続けられるという保証はありません。

2014年の損保ジャパン社と日本興亜社の合併を挟んで、この数年間、同社では『希望退職』に名を借りた、退職強要が執拗におこなわれました。「希望退職に応募はしない」と言っているにも関わらず何度も面談に呼び出され、「あなたにやってもらう仕事はない」「これからは、仕事は女性にやってもらう。男性は必要なくなる」など繰り返し退職を迫られる実態が聞こえてきました。

企業には、従業員やその家族の生活を保障すべき責任があります。損保ジャパン日本興亜には、日本を代表する企業にふさわしい対応が求められています。

## まるでブラック！労働基準法違反の「労働時間制度」

損保ジャパン日本興亜では、営業や自動車保険の事故処理の社員に「裁量労働制」や「事業場外労働制」という『みなし労働時間制度』が導入され、残業料は1日1時間程度に固定されています。

本来、「裁量労働制」は、「企画・立案・調査など事業運営上の重要な決定をおこなうため、自らの裁量で手段や時間配分の決定をおこなう人」が対象です。営業や自動車保険の事故処理など損害調査の仕事は企画・立案とは大きく異なる仕事です。また、「事業場外労働制」は使用者の管理監督が及ばない人に適用される制度です。

長時間労働は健康破壊や過労死を招きます。労働基準法違反の『みなし労働時間制度』は改めるべきです。



# 介護分野にいかしてほしい、損保産業の精神

損保ジャパン日本興亜の金融持ち株会社(親会社)であるSOMPOホールディングスは、“今後の経営の大きな柱”として介護事業の展開をおこなうと発表しています。

その具体的な取組として、『ワタミ』の介護部門の買収や、『メッセージ』社への出資比率の引き上げによる子会社化をおこないました。

『ワタミ』は、従業員の過労死が社会的な大問題となり、2015年12月裁判で和解し、和解案の中に「過重労働再発防止策」を折り込むなど、大きなニュースになりました。

『メッセージ』グループの傘下には、入居者が相次いで転落死し、従業員が殺人罪で逮捕された川崎の老人ホーム「アミーコ」があり、介護現場の労働条件の改善が急務であるとの世論を巻き起こしています。

SOMPOホールディングスでの介護事業の従業員は27,800人、グループの全従業員76,000人の36.6%を占めることとなります。もはや損害保険会社とは言えません。



介護は、社会的にも、その充実が求められている社会保障の分野です。社会保障の分野に大きな利益を求める事は困難です。

損保産業の精神は「一人は万人のため、万人は一人のため」です。

介護分野への進出には、損保産業の精神を大切に、劣悪な介護周辺産業の労働環境の改善を図るかどうか問われています。

小畑裕久さんは、日産火災で27年、損保ジャパンで11年、38年間、自動車損調・火新損調の最前線の現場で一生懸命働いてきました。

60歳の定年をひかえて、再雇用を希望しましたが拒否され、「異議申し立て」をして会社と交渉してきました。会社からは明確な理由も示されないまま時間切れとなり、小畑さんは2013年3月末退職を余儀なくされました。

4月以降も、厚生労働省や大阪府の相談窓口を通じ申請・相談をし、何とか解決の道を図ろうとしてきましたが、会社は話し合いのテーブルにすらつきませんでした。そのため、小畑さんは、やむなく提訴に至りました。



## 小畑さんの職場(損保ジャパン)復帰を実現する会

〒541-0045 大阪市中央区道修町3-3-10 日宝道修町ビル3階 大阪損保革新懇気付 TEL06-6232-1095